

## 法学概論(Law)

担当教員名	仲宗根 卓	
学科・専攻, 科目詳細	機械工学科 5年 前期 2単位 学修単位 講義	
学科のカリキュラム表	一般科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 人文科学・社会科学系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-2(60%) B-2(20%) C-1(20%)
	JABEE基準1(1)	(a) (b)
科目の概要	<p>買い物をする、電車に乗る、アルバイトをする等、我々の日常生活におけるあらゆる行為には、常に法が関係している。従って、法を正しく理解することは、日常生活をおくる上で不可欠である。本科目では、社会生活における重要なテーマを通じて、社会と法の在り方や問題について考えていくことを目的とする。</p>	
テキスト(参考文献)	使用しない。毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。参考文献は初回授業で紹介する。	
履修上の注意	<p>本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。授業では条文を頻繁に確認することになるため、各出版社が刊行している小型の六法が手元にあれば学習の手助けになる。六法を用意できない場合は、e-Govにアクセスをして、「憲法」「刑法」「民法」の条文を印刷する必要がある。</p>	
科目の達成目標	<p>本科目は入門的な科目に位置づけられるため、法学の予備知識は不要である。ただし、法学が実社会と密接な関連をもつ学問であることから、日頃から時事問題には常に注意を向ける姿勢が求められる。また、講師はインタラクティブな授業を想定しているので、受講者に積極的な発言を求めることもある。受講生の主体的な学習態度をもとに以下を達成したい。</p> <p>本科目では、最初に法学の対象、目的、方法論等、法学に関する基本的な知識の習得を目指す。その後、実定法の体系を確認し、憲法、刑法、及び民法の基礎知識を、具体的な事例や重要判例の分析等を通じて習得する。また、国家間の権利義務関係を規律する国際公法についても理解を深める。そして最終的に、現代社会で生じている様々な事件や事象を、法的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p>	
自己学習	<p>法学を初めて受講する者にとって、授業の聴講のみで抽象的な法概念を完全に理解することには困難が伴うかもしれない。従って、テキストに目を通す等、最低限の事前準備が必要となる。また、事前に判例資料を配布することもあるので、六法（又は印刷した条文）を片手に必ず精読をし、法的争点をおさえた上で授業にのぞむこと。さらに、授業で時事問題を扱う際には下調べ等の予習を課すこともあるので留意されたい。</p>	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末試験60%</li> <li>・ 課題（小レポート、事前学習等）30%</li> <li>・ 平常点（出席及び授業態度）10%</li> <li>・ 60点以上を合格とする</li> </ul>	
連絡先	nakasone.suguru.54u@st.kyoto-u.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	<b>法とは何か</b> 法の分類、及び規範について学習する
第2週	<b>法の適用</b> 法規範、及び法源について学習する
第3週	<b>法の適用</b> 法の段階的構造、及び法解釈について学習する
第4週	<b>裁判</b> 裁判員制度について学習する（レポートの提出）
第5週	<b>憲法</b> 日本国憲法の基本原理、とりわけ平和主義について学習する
第6週	<b>憲法</b> 基本的人権の原理、及び憲法が保障する自由権について学習する
第7週	<b>憲法</b> 憲法が保障する社会権について学習する
第8週	<b>レポート作成</b>
第9週	<b>憲法</b> 日本の統治機構について学習する
第10週	<b>刑法</b> 刑法の機能、及び犯罪の成立要件について学習する
第11週	<b>刑法</b> 刑事手続について学習する
第12週	<b>民法</b> 財産法（物権及び債権）について学習する
第13週	<b>民法</b> 家族法（親族、及び相続）について学習する
第14週	<b>国際公法</b> 国際公法の特質（分権構造社会）、及び領土問題について学習する
第15週	<b>国際公法</b> 戦争（武力紛争）と無人兵器の問題について学習する
<b>期末試験</b>	